

長澤 弘(編)

脳卒中・片麻痺理学療法マニュアル

吉尾雅春

千里リハビリテーション病院開設準備室・
元札幌医科大学教授

「脳卒中・片麻痺理学療法マニュアル」, 正にタイトルにふさわしい内容と手法を擁した書籍である。臨床で用いる可能性の高い検査法を具体的に紹介し, 多くのフローチャートを用い, また, 理学療法を進めていく上で重要なことを箇条書などにまとめたことで, 読者を理解へと導いてくれる。

本書は, 第Ⅰ章「脳卒中・片麻痺のとらえ方」, 第Ⅱ章「脳卒中・片麻痺の疫学, 診断学, 内科・外科的治療」, 第Ⅲ章「脳卒中・片麻痺の理学療法評価と治療介入」, 「付録」によって構成されている。その大半は「脳卒中・片麻痺の理学療法評価と治療介入」に割かれ, その内容は理学療法評価, 課題志向的治療介入, 長期療養に向けて, という項目でまとめられている。

第Ⅲ章「脳卒中・片麻痺の理学療法評価と治療介入」の中で, 「理学療法評価」と「長期療養に向けて」では KEY 概念, 目的, 具体的方法を提示し, その評価結果の解釈と評価におけるポイントが小気味よくまとめられている。この要点の示し方はなかなか素晴らしい配慮である。特に評価結果の解釈をどうするか, 評

価におけるポイントについては臨床経験豊かな執筆者なればこそ教示できる内容になっている。「課題志向的治療介入」では, ここを押さえよう, この課題の特性・特徴, 理学療法治療介入の実際, という展開の後, 効果判定指標は何か, を必ず示している。効果の確認を行うことは当然のことでありながら, 日々の臨床活動で曖昧に進められる可能性もあるので, ぜひ押さえておきたい指標である。

第Ⅱ章「脳卒中・片麻痺の疫学, 診断学, 内科・外科的治療」では, 理学療法を行うにあたって把握しておかなければならない各病型について簡潔明瞭に, いや, かなり凝縮して情報が満載されている。内科的・外科的治療では近年注目されている tPA による血栓溶解療法をはじめ, よく行われる治療を紹介し, さらに再発予防や合併症に対する治療などについても広く言及している。脳卒中患者に関わる理学療法士であればこの章の内容は必ず把握しておきたいものである。

編集にあたられた長澤氏の思いと, 豊富な知識および経験の集大成は第Ⅰ章「脳卒中・片麻痺のとらえ方」にある。わずか 9 ページの箇条書きではあるが, 幅広く, 奥深い長澤氏の理学療法像が浮かんでくる。

「脳卒中・片麻痺理学療法マニュアル」, 臨床にあたって常に傍に置いておきたい本である。

●A5 判 428 頁(2 色刷)

定価 5,460 円(本体 5,200 円+税 5%)

2007 年 文光堂・刊